

『冷徹上官の不機嫌な歪愛2』

●ウエルナー

・識別番号 F V - 0 9 (所属部隊 victor)

・身長 189

・年齢 29

脳とリンクした自機が撃墜されたときに脳に過剰不可がかかるドローンパイロット。その多くが致命的な脳障害によって二年足らずで退官するが、ウエルナーは長期にわたって運用されている。

自他とも認めるエースだが人間性は最悪であり、無能な人間が何より嫌い。そのくせ自分以外を全員無能だと思っている。

ヒロインが担当になってから幻聴と幻覚がおさまリ、安眠できるようになって戦績が上がった。その結果、中央基地のセントラルに配置換えが決まる。

十年前にセントラルで戦闘訓練を受けており、その時のパートナー兼教育係がフジ・ソウマ。

●フジ ソウマ

・識別番号 C C - 3 1 8 (所属部隊 cunae)

・身長 175

・年齢 41

元ウエルナーの教育係で、ベテランの調整機。

調整機の個人情報秘匿プログラムが実地される前からいる古株。すでに個人情報を知れ渡っているため、普通に名前で呼ばれている。

現在の主な仕事は、捕虜を懐柔して人道的に情報を引き出すこと。

明るくて気安い性格で、面倒見もよく誰にでも好かれる、脱力系のいいおじさん。全体的に胡散臭いところがあり、立場上実際結構秘密を持っているが、悪い人間ではない。

誰に対しても「自分は特別だ」と思わせることにたけているので、付き合いが長い人間ほど「あいつは誰にでも優しいよ」と半笑いになる。

女遊びをしているわけではないが、女性関係でよく流血沙汰が起きる。

そのため、自分に興味を向けない女性に惹かれがち。

調整機は他人の脳に干渉して感情を操作する訓練を受けているが、一般的に「乱れた脳波を正常化するのが限度」と言われている中で、相手の脳を発狂寸前のレッドアラートまで持つて行ける。ウェルナーのことはお気に入り。左目の義眼は気分によっていろいろかえている。

●ヒロイン

識別番号FC・27（所属部隊 cunae）
戦闘で高ぶった「戦闘機」の脳をリラックスさせ、メンテナンスすることを任務とする「調整機」。

戦闘機と精神的に深くつながることを前提とした役職であるため、識別番号以外のすべての情報は入隊と同時に抹消され、以降秘匿されている。ウェルナーと色々な意味で相性が完全に合致している。

●『セントラル』

多国籍軍の中央基地。

ここに所属している人間は全員エリートということになる。

日系企業が囃んでるので識別コードは日本語読み。

●受付

識別番号CSー055（セントラル所属のセキュリティの55番）
基地の安全に関する任務を担う部隊で、受付業務を担当している。

基地に來た人間の顔とデータが頭の中ですべて一致しているため、誰もこの受付の目をごまかすことはできない。

表情はさして変わらないがわりとノリがいいタイプ。

トラック1 フジ・ソウマ

フロント基地からセントラル基地に移動になったウエルナーとヒロイン。受付を済ませて、案内の担当官であるソウマと会うが、ソウマはウエルナーと旧知の仲だった。

【中央基地ロビーの受付に向かうウエルナーとヒロイン】

時刻…日中

床…硬い系

SE:やわめき (5秒くらいで忘れてください)

SE:ヒロインとウエルナーの足音フェードイン

【3 隣に立つ距離 正面を見て】

ウエ「相変わらず、中央基地は無駄に人が多い……」

【ヒロインを見て】

ウエ「(呆れて) ニーナ。

きよろきよろしてるとぶつかりますよ。

犬でももう少し賢く歩く。

受付で登録を済ませますから、

そこから動かないように」

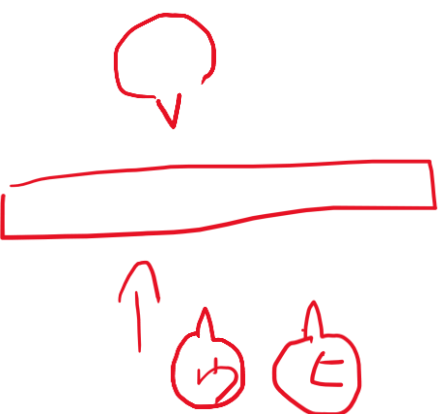
【受付、歩いてくるウエルナーとヒロインに気づく】

【6】

受付「ようこそセントラルへ！

センサーに手を当て、カメラを見ながら

IDの提示をお願いします」



【9 ヒロインに背を向けて】

ウエ「識別番号FV・09ウエルナーと、
その調整機FC・27」

SE:電子音(ピピ、とかポン、とか短めのもの)

【9】

受付「ああ、フロントから異動してきた……。

栄転じゃないですか。おめでとうございます」

ウエ「栄転ね……どこで屍を晒すかの違いが

どれほど重要なんだか。

もう通っても?」

受付「ううゝ【ひゅうゝ系の感嘆符で】

すごい、ソウマさんが言ってた通りの性格だ」

ウエ「ソウマ……?」

【嫌そうに】フジ・ソウマがまだこの基地に?」

受付【あえて詳しく答えない】あはは。

どうぞ、奥へお進みください。

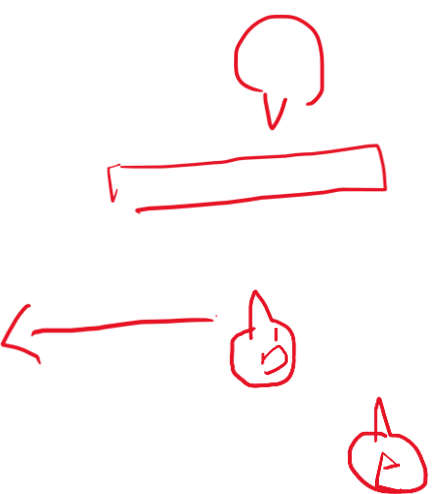
担当の者をご案内いたします。

あ、次の方こちらへどうぞ!」

ウエ【ため息交じりの舌打ち】これだから中央は。

【ヒロインを見て】ニーナ、間抜け面で

突っ立ってないで行きますよ」



1
2 (ヒロイン、慌ててウエルナーについて歩く)

3
4 SE:ウエルナーに駆け寄る足音

5 SE:足音二人分

6
7 【ヒロイン、じつとウエルナーを見つめる】

8
9 【9 ヒロインを見て】

10 ウェ「……なんですか、その視線は。

11 見てるだけで会話が成立する

12 特殊技能でも身に着けたんですか？」

13
14 【ヒロイン「フジ・ソウマって誰ですか？」

15
16 ウェ「ああ……ソウマは……

17 【視線を逸らす】あなたが知らなくてもいい名前です。

18 いまだにこの基地に所属しているなら、

19 今頃は雲の上の——」

20
21 【15 遠くから】

22 ソウマ「嬉しそうに」お、きたきた！」

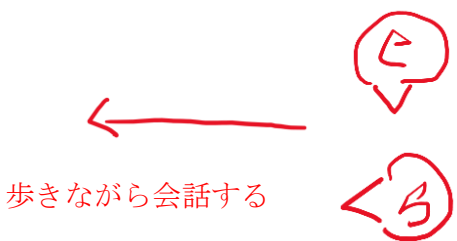
23
24 【呼び声に気づいて、足を止める二人】

25
26 SE:足音ストップ

27

28

29



正面からかけよる

1 【9 遠め 駆け寄ってくる】
2 ソウマ「おーいウエルナー！
3 よく戻ってきたなこの問題児！」
4

5 【11 正面を見て】
6 ウェ「ぽつりと」最悪だ」
7

8 【ソウマ、走ってきた勢いのままウエルナーにハグする】
9

10 SE:駆け寄る足音

11 SE:強めの衣擦れ

12
13 【9】
14 ソウマ「フロントでの任務はどうだった？
15 しんどかったよなあ」
16

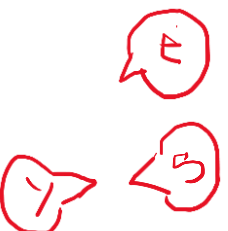
17 【10】
18 ウェ「離れてください暑苦しい。
19 あなたの国にハグの習慣なんてないでしょう。
20 この流れでニーナに抱き着いたらハラスメントで
21 告発しますよ」
22

23 ソウマ「感心して」十年ぶりなのにキレッキレだなあ。
24 元気そうでよかった。

25 【ヒロインを見て】で、君が噂の調整機か」
26

27 【ヒロイン「噂……？」】
28
29

ヒロインはソウマを見てる



1 【9】

2 ソウマ「ああ、ごめんね。警戒させちゃったかな。

3 僕の名前はフジ・ソウマ。

4 君と同じ調整機だ。一応、君が所属するのは
5 おじさんの部隊って扱いになるからよろしくね」

6
7 ソウマ「調整機なのに本名を名乗ってるのは、

8 個人情報秘匿プログラムが

9 運用される前から在籍してるおじさんだから。

10 ついでにいうと、ウエルナーの

11 訓練生時代のパートナーで教育係。

12 こいつの脳って扱いづらいでしょ？

13 ここだけの話——」

14
15 【ソウマ、ヒロインの耳に口を近づけてひそひそ

16
17 【7 耳元】

18 ソウマ「僕が優秀過ぎたせいで、

19 僕以外じゃ満足できない体に

20 なっちゃったみたいなんだよね」

21
22 【11 ソウマを見て】

23 ウエル「きつ……しよくわる……」

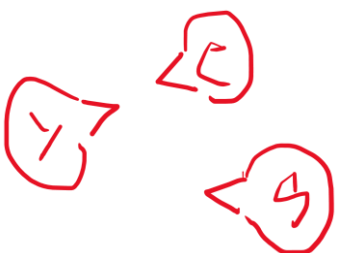
24
25 【9 ウエルナーを見て】

26 ソウマ「あれ聞こえちゃった？

27 へえ。お前この手の内緒話

28 ぜんぜん聞こえないタイプだったのに」

以降べた足で、適宜視線交わしつつ会話



【11 ソウマを見て】

ウエル「無駄話をするために声をかけてきたんですか？」

私たちは案内の担当官を待ってるんです。

あなたも仕事に戻ったらどうです？」

ソウマ「あのねウエルナー。

あんまり察しが悪いと減点だよ？」

ウエル「……【察して】なるほど。

あー……いえ、まだ少し理解が。

あなたが担当する業務ではないと思いますが」

ソウマ「知り合いの方が何かと

気心が知れてていいでしょ？

君たちには早く中央に馴染んでほしいっていう、
上層部の計らいじゃないの」

【9】

ソウマ「で、さっそくだけど

今後について軽く説明させてね。

調整機と戦闘機には、それぞれ個別で

メンテナンスを受けてもらいます。

調整機の方は、この後すぐに

僕が担当することになってるからよろしくね。

えーと……おじさんも

ニーナちゃんって呼んでいい？」



1 【11 ソウマを見て】
2 ウエル「ダメです」

3
4 ソウマ「え、じゃあおじさんが自由に
5 ニックネーム決めていいってこと？」

6
7 ウエル【嫌そうに】識別番号で呼べばいいでしょう。
8 ニーナ。一応忠告しておきますが、
9 この馴れ馴れしい男は調整作業で他人の脳を
10 レッドアラートまで持って行ける異常者です。
11 一度気を許したら、
12 そうと知らないうちに洗脳されますからね」

13
14 ソウマ「業務外でそんな疲れることしないって。
15 洗脳ってすごく時間と手間暇かかるんだから。
16 っていうか今からメンテナンスで
17 脳にリンクしなきゃいけないのに、
18 変な悪口吹き込むんじゃないよ」

19
20 ソウマ「さ、こんな性格終わってる男置いといて、
21 メンテナンスに行くよニーナちゃん」



トラック2 調整

ソウマから調整を受けるヒロイン。しかし調整というのは建前で、ヒロインが中央にふさわしい人員かどうかの確認作業。深層心理を深く探られて裏切りの心配がないかを見られる。ついでに有能なヒロインをどのように運用できるかの可能性も探る。

【調整室に入る二人。床は絨毯】

SE:スライドドア開く

SE:二人分の足音

【11】

ソウマ「ようこそ僕の調整室へ」

SE:スライドドア閉じる

ソウマ「じゃあ、そのソファに座ってもらえる？」

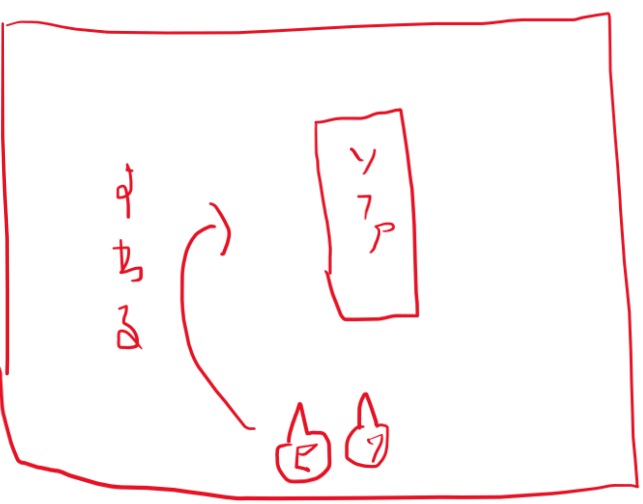
SE:ヒロインの足音

SE:ヒロインソファに座る

【ヒロイン「メンテナンスって、何をするんでしょう？」】

【ソウマ、調整の準備のために部屋を軽くうろつきながらしゃべる。9 始まりで、時計回りに動いて16で足を止める】

SE:ソウマの足音



【15 ヒロインに背を向けて】

ソウマ「そんなに構えなくても、
いつも君がウェルナーにしていることだよ。

【独り言】あれ、どこに置いたっけ。

脳を接続して、脳波の乱れを見て、整える。
調整機って精神を病むことが多いでしょ？」

SE:紙系ガサゴソ

【13 ヒロインに背を向けて】

ソウマ「だから、そうなる前に精神状態を確認するだけ。

中央に配置されると、

扱う機密や作戦のレベルも高くなるから、
調整機のケアも手厚くなるんだ

【独り言】あ、あったあった」

SE:ぐんカチャカチャ

【ヒロイン「中央以外の調整機は使い捨て…ですか？」】

【11 首だけヒロインを向く】

ソウマ「あっはは！

軍人なんて、ぜーんぶ使い捨てでしょ？

末端に行けば行くほどね。

だからおじさんも、

捨てられないように頑張ってるわけよ。

ただでさえ、男の調整機なんて需要少ないんだから」



1 【ヒロイン「確かに、珍しいですね……」】

2
3 【11↓16】

4 ソウマ「まあ、調整機の部隊名が“ゆりかご”っていう
5 くらいだからね。

6 戦闘機のママ扱いだから、

7 女性が多くなるのはしょうがないけど……

8 僕みたいなパパがいてもいいよねえ？」

9
10 SE:足音ストップ

11
12 【ヒロイン「いいと思います」】

13
14 ソウマ「ニーナちゃんにそう言ってもらえると

15 おじさん自信がわいてくるなあ。

16 けっこう失敗も多いからさ」

17
18 【ヒロイン「失敗って……？」】

19
20 ソウマ「んー……まあ、よくある失敗だよ。

21 例えばこの義眼とか。

22 ほら。調整作業って、

23 頭と頭をくつつけてやるでしょ？

24 【7 耳元で】こう、抱き合うみたいな感じでさ」

25
26 SE:ソウマの軽い衣擦れ

27 SE:ソファの軋み

28
29



ゆったり系のソファに座ってるヒロインに覆
いかぶさる形で作業します

1 【7 耳元で】

2 ソウマ「セキュリティ上、合意がなければやりにくい
3 構造にしてあるんだけど……」

5 【ソウマ、体を起こして元の位置へ】

7 SE:衣擦れ

9 【16】

10 ソウマ「まあ、興奮して暴れてる戦闘機相手に、
11 合意なんて取れるわけないからさ
12 指が目に入っちゃって、そのまま失明」

14 ソウマ「あ、恨み言とかじゃないんだよ？

15 やらなきゃ彼は廃棄されるところだったし、
16 若者の命とおじさんの目玉一つなら、
17 おつりで家が建つもんね」

19 ソウマ「それに見て、かわいいでしょこの義眼。

20 古い映画にこういう義眼つけてるキャラがいてさ、
21 特注で作っちゃった。

22 今時は体のカスタマイズなんて珍しくもないし、
23 老眼になる前にもう片方も
24 義眼化した方がいいかもねえ」

26 【ヒロイン「心が広いですね……」】

1 ソウマ「心の広さは調整機の必須条件だからね。
2 ニーナちゃんもかなりのものだと思うよ。
3 あのウエルナーの面倒が見られるんだから。
4 おじさんは君の精神状態が心配です。
5 じゃあ、メンテナンス始めようか。
6 目を閉じて、ゆっくり深呼吸」
7

8 【ソウマ、ソファに体重かけてヒロインの肩口に頭を寄せる】
9

10 SE:ソファが軋む
11

12
13
14 【7 耳元で】

15 ソウマ「少し、首にさわるよ。脈を見ながらやるから。
16 ああ、緊張してるね。
17 さっきウエルナーが言ってたこと、気になる？」
18

19 【ヒロイン「大丈夫です」】
20

21 ソウマ「そう？ 強いんだね。いい子だ。
22 うん。脳波も素直で綺麗だね。
23 こんなに入りやすいと、逆に不安になるな」
24

25 【ヒロイン「もう始まってるんですか？」】
26
27
28
29



1 【7 耳元で】

2 ソウマ「うん、始まつてる。

3 あは、驚いた？

4 おじさんねえ、階級が下の人間の脳には、

5 無許可でアクセスできるんだ。

6 怖くなってきた？

7 怖がつてもいいよ。僕が落ち着かせてあげるから。

8 もう少し深く入らせてね。

9 軽く感覚をつなぐよ。

10 僕が感じたものを、君も感じるようになる。

11 君が感じたものを、僕も感じるようになる」

12
13 ソウマ「まだ深く入れそうだな。

14 君の心の、もっと深いところ。

15 自分でも知らないくらい、

16 深い、深い、無意識の向こう側」

17
18 ソウマ「もう、君は目を開けられない。

19 手も足も動かせない。僕の声だけが聞こえる。

20 さあ、想像してくれる？

21 もしウェルナーが軍を裏切ったら、君はどうするか。

22 ああ、想像できないか。あいつを信じてるんだね。

23 それに、哀れみ……支配欲？

24 いや、母性か。

25 自分以外、誰もあいつを理解できないと思ってる」

26
27
28
29

1 【7 耳元で】

2 ソウマ「けど、あいつは君じゃなくても大丈夫だよ。

3 中央にいれば、ほかに相性のいい調整機を
4 いくらだって見つけられる。

5 だから、君にはほかの仕事をしてほしいんだ。

6 中央に呼ばれたのは、ウエルナーじゃない。

7 本当は君なんだ。

8 君の調整機としての能力が欲しい」

9
10 ソウマ「無理強いはしないよ。

11 けど、君はどうしたい？

12 もしウエルナーが君を必要としていないなら、
13 より世界に貢献できる仕事をしたいと思わない？」

14
15 【ヒロイン「お、思いません」】

16
17 S E…ノイズ（ジジッとかがざっ系の短いやつ）
18

19 【ソウマ、驚いて体を引く】

20
21 S E…衣擦れ
22

23 【7↓16】

24 ソウマ「うわ……！ え？ うそ。

25 今、僕のこと頭からはじき出した？

26 すごいねえ！ どうやったの？」

27
28 【ヒロイン「嫌だなと思っただけで……」】
29

1 【9】

2 ソウマ「嫌だなと思っただけで、

3 普通できることじゃないけど……。

4 いやあ、おじさんビックリしたわ」

6 【ヒロイン「私を洗脳しようとしたんですか？」】

8 ソウマ「洗脳？ してないしてない！

9 ただ、本当の気持ちを知らなかっただけ。

10 それと、本当のことを知ってほしかっただけ。

11 僕が嘘を言っていないのは分かったよね？」

13 【ヒロイン、うなづく】

15 SE:肯定の衣擦れ

17 ソウマ「老婆心ってわけじゃないけど、

18 才能って大事にしないともったいないじゃない。

19 おじさんのには、ニーナちゃんには

20 もっと大きい仕事してもらえたらなあって思います。

21 【切り替えて】ってわけで、

22 今日の仕事はおしまおしまい！

23 脳波はすべて異常なし。

24 危険思想もなかったし、

25 中央の戦闘機を任せるに足る調整機だと認めます」

1 【9】

2 ソウマ「じゃ、今から中央所属の

3 調整機チームで飲みにいこう！

4 ウェルナーは深夜まで精密検査だから、

5 どうせ今日はもう会えないし。

6 歓迎会させてよ」

7
8 【ヒロイン「え、でも……」】

9
10 ソウマ「え、断るの？

11 でもさ、ウェルナーの訓練生時代の

12 話聞きたくない？

13 あいつ、問題児だったけど優等生でもあったんだよ」

14
15 【ヒロイン「聞きたいです……」】

16
17 ソウマ「そうこなくちゃ！

18 部下に『新人連れてくから』って

19 大見栄切っちゃってたからさ。

20 じゃ、行こう行こう。

21 気が変わらないうちに、ね？

22 あ、明日は休養日だから、

23 思い切り酔っぱらって大丈夫だからね」

トラック3 懲罰

個別検査中に「ほかの調整機と組ませるかも」と言われたウェルナーが、歓迎会で酒に酔って帰ってきたニーナに怒りを抱き、自分の立場を思い出させるために手ひどく犯す嫉妬えっちトラック。

【飲み会から部屋に帰るヒロイン】

SE:スライドドア開く

SE:数歩歩く

【ヒロインが部屋に入ると、ドアの横で待ち構えていたウェルナーに壁に押さえつけられるヒロイン】

【6】

ウェル「不機嫌に」随分遅いお帰りですね」

SE:驚きの衣擦れ

SE:壁ドン

【8】

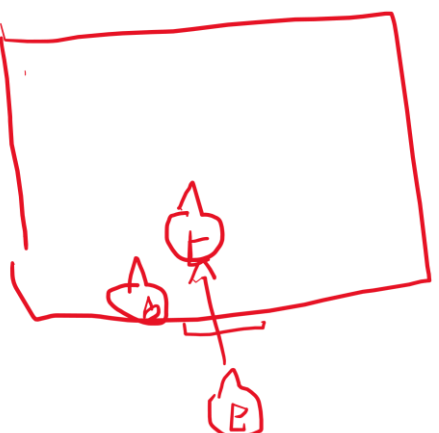
ウェル「軽く臭いをかいで」それに、

不愉快なほどの酒の臭い。

私の忠告を聞かずに、

フジ・ソウマと夜を過ごしたというわけですか」

【ヒロイン「歓迎会を開いていただきました」】



【8】

ウエル「歓迎会？ つは……！」

フジ・ソウマとその取り巻きが、

あなたに洗脳のタネを

植え付けるため場だったと気づきませんか？」

ウエル「さぞ、耳障りのいい言葉で歓迎され、

もてはやされたことでしょうね。

自分が特別だと思い込まされたのでは？」

【ヒロイン「そんなことは……」】

ウエル「フジ・ソウマに何を言われたか知りませんが、

あなたにそんな価値はない」

【7 耳元で】

ウエル「あなたの唯一の価値は、

この私に耐えられることです。

ここ最近、少し甘やかしすぎていたようですね。

思いつがっているのでは？

あなたなどしよせん私の所有物に過ぎないと、

もう一度思い出させる必要があるそうだ。

服を脱ぎ、壁に両手をつきなさい」

【ヒロイン「誤解です」】

【1】

ウエル「誤解？ 私が？

わかっていないのはそちらでしょう。

私は服を脱いで、壁に手をつけと言ったんです。

それとも、私の命令に従えない？

ずいぶんと偉くなったものですね」

ウエル「かまいませんよ。

では、あなたはもう用済みだ。

上層部が求める通りに、別の調整機を

受け入れることにしましょう。

【言いながら背を向ける】

さようなら、FC―27。」

SE…衣擦れ

【ヒロイン、「嫌です」と慌ててウエルナーにしがみつく】

SE…しがみつく衣擦れ

【1 ヒロインに背を向けて】

ウエル「クソデカため息」うつとうしい……

いらないんですよ。

私の命令もきけないような調整機なんて。

あなたも同じでしょう。

せいぜい、私より扱いやすい戦闘機と組むといい」

【ヒロイン「言う通りにしますから」】



1
2 【1 ヒロインに背を向けて】
3 ウエル「今更言う通りにするのなら、
4 なぜ最初から従えないんです？
5 あなたは過去から何も学べないんですか？」
6

7 【ヒロイン、必死に謝る】
8

9 【1 肩越しにヒロインを見る】

10 ウエル【舌打ち】謝る以外に脳がないんですか？
11 まったく、面白みのない。
12 冗談のつもりでしたが、
13 本当に手放したくなってきたな」
14

15 【ヒロイン、泣く寸前】
16

17 ウエル「その顔……」
18

19 【ウエルナー、ヒロインに振り向いて顔を覗き込む】
20

21 SE…衣擦れ
22

23 【1 至近距離】
24

25 ウエル「その顔には、いつも少し価値がある。
26 泣く寸前の、壊れそうな、
27 みじめに歪んだあなたの顔にはね」
28
29



1 【3 耳元】

2 ウエル「その顔に免じて、

3 もう一度だけチャンスをあげます。

4 服を脱いで、壁に手をつきなさい」

5
6 【ヒロイン、服を脱いでウエルナーに背を向け、壁に両手をつ
7 く】

8
9 SE:フアスナーをおろす

10 SE:服を脱ぐ衣擦れ

11 SE:背を向ける足音

12
13 【5】

14 ウエル「ああ、無様ですね。

15 よくお似合いだ。

16 たかだか数回フジ・ソウマと個人的に出かければ、

17 あなたは自ら望んで奴の前で服を脱ぐでしょう。

18 奴の興味を引くために、どれだけ淫らな

19 要求にもこたえるようになる」

20
21 【ヒロイン「そんなことにはなりません」】

22
23 ウエル「いいえ、なるんですよ。

24 誰もあの男には逆らえない。

25 あなたのように意志薄弱で、

26 愛情に飢えている女など特にそうだ」



1 【4 背後から】

2 ウェル「あの男に、どこまで深く入らせたんです？

3 私の所有物でありながら、私が触れたことのない、

4 一番深いところまで入らせたのでしょうかね。

5 愚かなあなたに教えておきましょう。

6 あの男に入られたのなら、

7 あなたの脳はあの男の監視下にある。

8 あなたが何を感じたのか、すべてが記録に残される」



10 ウェル「特に今夜などは、動作チェックもかねて

11 念入りに見ることでしょうね。

12 意味が分かりますか？

13 あなたが屈辱的な扱いを受けながら、

14 馬鹿みたいに興奮して濡らしているところを、

15 あの男に観察されてるということですよ」

17 【ヒロイン「嫌……！」】

19 SE:衣擦れ（足元に布があるのでそれが鳴ってる想定で）

21 ウェル「っ……！」

23 SE:壁を強めに一度叩く

1 【4】

2 ウェル「誰が動いていいと言いました？」

3 私があなたに許可する行動は、

4 自分で自分を慰めることだけです。

5 あさましく壁に胸をこすりつけながら、

6 指を奥まで入れて、出して……

7 イくまで続けるといい。

8 あの男と同じように、私が見ていてあげますから」

10 ウェル「何を黙ってるんです？

11 早く。ほら、早く！」

13 SE:壁を強めに一度叩く

14 【ヒロイン、しぶしぶ従う】

16 SE:指を入れる音

17 SE:水音

19 【4】

20 ウェル「やればできるじゃないですか。

21 性的に興奮した脳波は見分けやすいと言います。

22 他人の脳をハックして、

23 快樂におぼれているところに

24 奇襲をかけることもあるくらいですからね。

25 今あなたの脳を監視しているのが、

26 フジ・ソウマ一人だいいですが……」

1 【3 耳元 背後から】

2 ウエル「耳、真っ赤になってますけど。

3 舐められるのを期待してるんですか？

4 いいですよ。上手におねだりできるのなら。」

6 【ヒロイン、躊躇ゼロでおねだり】

8 ウエル【少し嬉しそうに】「少しも躊躇しないとは、

9 恥じらいのかけらもない女ですね」

11 【耳舐め1分程度、わりと長めにお願いします。耳たぶ噛む感
12 じを織り交ぜていただきたいです】

14 ウエル「指、随分お上品ぶってるじゃないですか。

15 そんなに浅いところばかりをゆるゆると。

16 いつももっと深く、もっと乱暴にと

17 ねだって泣く癖に……ねえ？」

19 ウエル「そんなんじゃ全然イけないでしょう。

20 あなたの体は足首まで涎を垂らして、

21 もっと激しい刺激を欲しがってるというのに」

23 ウエル「自分の指じやまともにイけないのなら、

24 私が手伝ってあげますよ」

26 【ウエルナー、立ちバックで挿入。身長差あるのでウエルナー
27 が腰つかんであげており、ヒロインの足は浮く】

1 SE:衣擦れ

2 SE:ファスナーおろす

4 【5】

5 ウエル「前戯なんていらないでしょう？」

6 これだけ十分に濡れていれば……

7 ね【言いながら挿入】



9 SE:挿入

11 ウエル「ああ、酒のせいですかね。

12 中、いつもより熱くて、

13 悪くない」

15 【責め立てる感じのガン突きの吐息1分程度ください】

17 SE:出し入れする水音

18 SE:肉を打つ音

20 ウエル「っはは！ もがいても無駄ですよ。

21 足、全然床に届いてませんから。

22 せいぜい壁に縋って鳴くといい」

24 【ガン突きの吐息1分程度ください】

26 SE:出し入れする水音

27 SE:肉を打つ音

1 【5】

2 ウエル「【舌打ち】さっきから、

3 無駄にぎゅうぎゅう締めすぎですよ。

4 少しも我慢できないんですか？」

6 【ヒロイン「顔が見たい」】

8 ウエル「顔？ ああ……」

10 SE:出し入れストップ

11 SE:いったん抜く水音

13 【いったんピストンストップして、駅弁に体位変える】

15 【1】

16 ウエル「ほら、こっちを向いて。

17 へばってないで、腰に足を絡めて。

18 顔が見たいと泣いて懇願するのなら、

19 自分から腰を振るくらいの

20 努力はして見せたらどうです？

21 【挿入の吐息】

23 SE:挿入

25 ウエル「あーああ。

26 入れただけでまたイって」

28 【ヒロイン、キスをねだる】



1 【1】

2 ウェル「そのうえ、今度はキスですか。

3 私に命令ばかりして、

4 これじゃどちらが上官か

5 わかりませんよ【言い終わりでディープキス】

7 SE: 出し入れする水音

8 SE: 肉を打つ音

10 【キスハメの吐息1分程度。終わりに向かって激しめで】

12 ウェル「く、出る……ああ……！【フィニッシュ】

13 はあ……はあ……」

16 【ウェルナー、ふとヒロインのぐちゃぐちゃの泣き顔に気づいて笑う】

19 【1】

20 ウェル「は、はは……！ ひどい顔ですね。

21 穴と言う穴から体液を垂れ流して、

22 なんて汚くて見苦しい」

24 【7 耳元】

25 ウェル【愛し気に】見るに堪えないおぞましきですよ。

26 とても見られたものじゃない。

27 あなたは……

28 誰に抱かれても、こんな風に乱れるんですか？

29 興味が出てきたな」

【7 耳元】

ウエル「気が代わりましたよ、ニーナ。

好きなだけフジ・ソウマと過ごすといい。

私に抱かれるあなたを、あの男は観測してます。

なら、あの男に抱かれるあなたを、

私が観測しても問題はない——そうでしょう？」

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29

1 トラック4 挑発

2 廊下でヒロインに声をかけると、ヒロインが泣きだして慌てる
3 ソウマ。ウェルナーがヒロインをソウマに抱かせようとしている
4 知って、少し怒る。それはそれとして実はきつちり脳に監視
5 は入れている。

6
7 時間：日中

8 場所：廊下

9
10 SE:ヒロインの足音

11
12 【廊下を曲がったところで、ソウマに出くわす】
13

14 【9】

15 ソウマ「あ、おはようニーナちゃん。
16 なんて、もうお昼だけ。

17 今から食堂？

18 おじさんも行くところだから案内してあげる」
19 ってか、昨日は大丈夫だった？」
20

21 【ヒロイン「(警戒しつつ) 何がですか？」】
22

23 ソウマ「何って、二日酔いとか。

24 知らない人だらけで気付かれしちやったかなーとか、
25 ちよっと飲ませすぎちゃったかなーとか。

26 おじさん心配してたのよ。

27 だから大丈夫だったー？ って——ってちよっと!？」
28

29 【ヒロイン、急にめそめそ泣きだす】



1 【9】

2 ソウマ「待つて待つて何で急に泣いちゃったの!?

3 おじさんのせい!?

4 おじさんが廊下で女の子泣かせてる絵面

5 ヤバすぎるって解雇されちゃうよ僕これ!」

6
7 【ヒロイン「私の脳を監視してたんですか?」】

8
9 【9↓3】

10 ソウマ「え、何? 脳の監視ってなんの話?

11 なんでそんな話になったの?

12 とりあえず、ここだと色々アレだから、

13 ちよっと場所変えようか。

14 ちゃんと話聞くからさ。

15 【肩を抱いて】ね? ほら、いこ」

16
17 SE:足音二人分フェードアウト

18
19 間

20
21 SE:スライドドア開く

22 SE:足音二人分

23 SE:スライドドア閉じる

24
25 【c】

26 ソウマ「またおじさんの調整室でごめんねえ。

27 すぐに自由に使える部屋がここしかなくてさ。

28 さ、そこ座って」



1 SE:ヒロインの足音

2 SE:ソファ座る

3
4 【ヒロイン、座ってソウマを見る。ソウマは椅子を引っ張って
5 きて横に座る】

6
7
8 【16】

9 ソウマ「それで？」

10
11 SE:椅子の車輪カラカラ

12 SE:近づいてくる足音

13
14 【6】

15 ソウマ【座る】「どうして泣いちゃったのかな。」

16
17 【ヒロイン「ソウマさんに抱かれて来いって言われました」】

18
19 ソウマ「ん……？ いやごめん。

20 全然流れがわからなかった。

21 これ違ったら僕が基地を去るレベルのセクハラだから
22 慎重に行きたいんだけど、

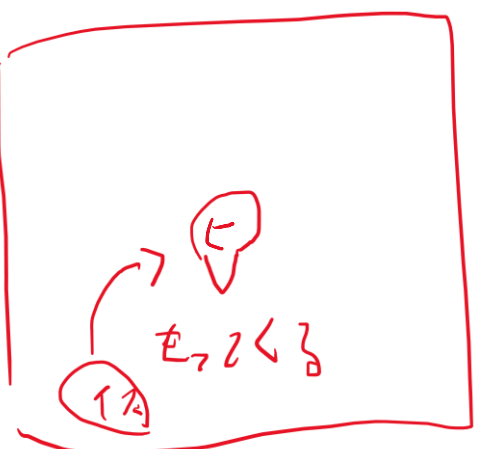
23 ウェルナーが？ 僕に？ 抱かれて来いって？

24 ニーナちゃんに言ったってこと？」

25
26 SE:肯定の衣擦れ

27
28 ソウマ「それは……

29 普通に嫌だって言ったら？」



1
2 【ヒロイン「命令に逆らうのかって怒られて」】
3

4 【9】

5 ソウマ「いや、業務外の命令は無視していいんだよ。
6 たしかに“フロント”でのウエルナーは
7 逆らえない存在だったかもしれない。
8 でも、中央であいつにそんな権利はない。
9 だから、そんな理不尽な命令は……」
10

11 【ヒロイン、めそめそ泣く】
12

13 SE…衣擦れ
14

15 ソウマ「ああ〜ごめんごめん！
16 そういう問題じゃないんだね。
17 ん〜……そうだな。
18 じゃあ、ウエルナーの言う通りにしちやおつか」
19

20 SE:驚きの衣擦れ
21

22 ソウマ「今、部屋のドアをロックした。
23 同時にセキュリティレベルを上げたから、
24 ウエルナーがどんな手段を使おうと、
25 この部屋で起きていることは絶対に感知できない」
26

27 【ヒロイン「どういうことでしょう？」】
28
29

1 **【9】**

2 ソウマ「話の流れからすると、

3 ウエルナーは今、君を監視してるわけでしょ？

4 君が僕に抱かれるところを見るために。

5 でも、ウエルナーは僕が

6 “言う通りにしちゃおっか” って言った時点で

7 通信が阻害されてるから、

8 ここで何が起きてるかは想像することしかできない」

10 **【ヒロイン「凄く怒りそう」】**

12 ソウマ「あはは！ そうだね、怒り狂うかも。

13 でも、おじさんもちよつと怒ってるからねえ」

15 **【ヒロイン「怒ってるんですか？」】**

17 ソウマ「当然、僕は怒らないといけない。

18 これは戦闘機による調整機への加害行動だ。

19 暴言程度ならほとんど見過ごされるけど、

20 これは完全にライン越え」

22 ソウマ「大体、なんで僕が泣いてる女の子に

23 簡単に手を出すと思ってるんだあいつは。

24 “それは彼氏が悪いね。ベッド行こうか？”

25 なんてやってたら

26 いつか刺されることくらいわかるよ、おじさんは」

28 **【ヒロイン「でも、それでパートナー解消されたら？」】**

1 【9】

2 ソウマ「パートナー解消……？」

3 【しれっと】まあ、されたら僕は嬉しいけどね」

5 【ヒロイン「私は嫌です！」】

7 S E…強めの衣擦れ

9 ソウマ「いや、ごめんごめん！

10 軽率な発言でした。おじさん反省してます。

11 まあでも、昨日の検査結果だと、

12 そうなりようがないっていうか……」

14 【部屋の外から、ドアを強く蹴る音が聞こえる】

16 S E:「ドッ」

18 ソウマ「un-oh（読みは“オッオー”です。

19 英語の“おっと”みたいな印象のやつ）」

21 S E:「ドン×3回

23 ソウマ「タイミング的にウエルナーだな。

24 【うきうき】え〜〜どうしよつか！

25 めちゃくちゃキレてるけど、

26 開けてあげる？」

28 【ヒロイン「開けないとダメでしょう!？」】

1 SE:強めの衣擦れ

3 【9】

4 ソウマ「んー？ 別に開けなくても大丈夫だよ。

5 僕は戦闘機にいじめられて泣いてる調整機を、
6 正当な理由でこの部屋に保護してる。

7 そこに問題の戦闘機が乗り込んできたとして、
8 開けるのと開けないの、正解はどっちだ？」

10 【ヒロイン「でも、開けないとウェルナーさんが……」】

12 ソウマ「そうだねえ。

13 このまま騒がせてたら、

14 鎮静剤ぶち込まれて反省房行きになるかな。

15 でも、懐かしくていいんじゃない？

16 あいつ、昔は週1で反省房行きだったし」

18 【ヒロイン、急いでドアを開けに行く】

20 SE:立ち上がる

21 SE:小走りの足音

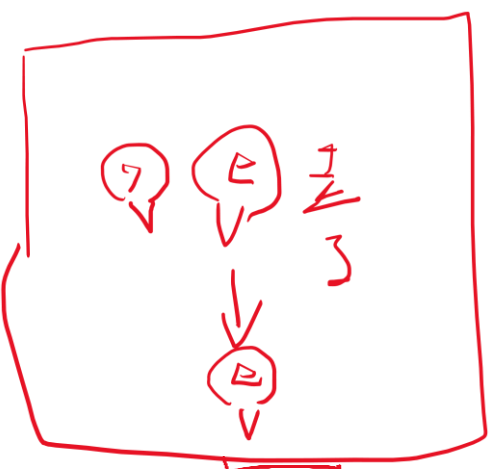
22 SE:アクセスエラー音

25 【13】

26 ソウマ「ニーナちゃんには開けられないよ。

27 ロックしたって言ったでしょ？」

29 【ヒロイン「開けてください！」】



SE..強めの衣擦れ

【9】

ソウマ「うーん、どうしようかなあ。
開けたら僕、ウェルナーに殴られると思うけど。
それでも開けてほしい？」

【ヒロイン「それは……」】

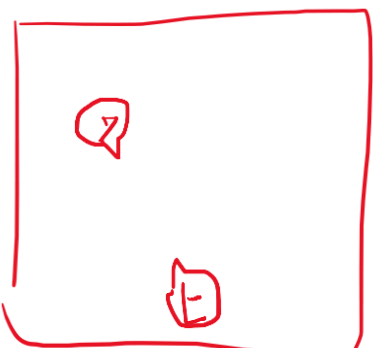
ソウマ「意地悪で聞いてるんじゃないんだよ。
ただ、開けることで発生するデメリットに、
君はどう対処するつもりなのか聞きたいんだ。
ウェルナーを怒らせた僕が悪いかな？
だから僕が殴られて解決すべきと思ってる？」

【ヒロイン「ごめんなさい……」】

ソウマ「笑って」謝ってどうするの。
子供のケンカじゃあるまいし、
それじゃ何も解決しない。
ああ——静かになったね。
鎮圧されちゃったかな。
あ、ちよつとごめんね。通話が入った。」

ソウマ「【通話】はい、第一調整室。」

あー、ドアの外の戦闘機でしょ？
いや、大したことないよ。
そういう性格の問題児ってだけ。
そっちは大丈夫？」



1 **【9】**

2 ソウマ「え!? 負傷者出たの!?

3 あちやゝ……ごめんね。僕が油断してた。

4 いや、君たちは悪くないよ。

5 その男、フロントに長くいたから

6 階級が実戦経験に対して低すぎるんだよね。

7 今は? 寝かせた?

8 悪いけど、特別調整室に連れていってもらえるかな。

9 拘束のレベル2で。

10 右目まで失明したくないからさ。

11 うん、助かる。ありがとう、すぐ行くから」

12
13 **【ソウマ、ヒロインを見て】**

14
15 ソウマ「やってくれたよ。

16 鎮圧用の装備してる警備兵に丸腰で

17 一撃入れて鼻の骨折ったって。

18 じゃ、僕たちも行こうか」

19
20 **【ヒロイン「どこに?」】**

21
22 ソウマ「特別調整室だよ。

23 おじさんのメインフィールド。

24 問題児への再教育の時間ってこと」

トラック5 再調整

特別調整室に向かうソウマとヒロイン。
椅子に拘束されたウエルナーが不機嫌で待っている。

SE:スライドドア開閉

【9 ヒロインに背を向けて】

ソウマ「うわ、起きてる。鎮静剤全然きてないじゃない。

お疲れお疲れ。警備兵ぶん殴ったって？

うわ、レベル2の拘束って

そんなにガチな感じだったけ。

あ、こらニーナちゃん！」

SE:駆け寄る足音

【ヒロイン「ウエルナーさん！」と言って駆け寄る】

【1】

ウエル「ニーナ。私に何か言うことは？」

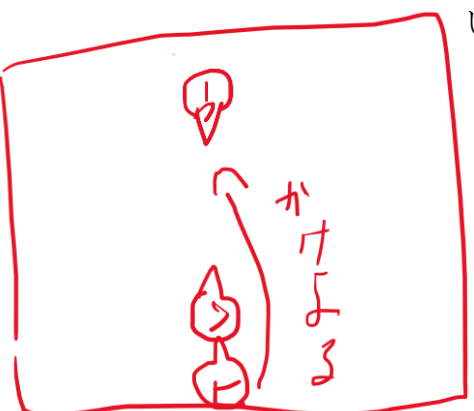
【ヒロイン「まだえっちなことされてません」】

ウエル「はあ？

よもやあなたがソウマに抱かれたかどうかを

私が気にしてると思ってるんですか？

思い上がりもそこまで行くと病気だな」



1 【13】
2 ソウマ「ニーナちゃん、ウエルナーにリンクしてごらん。
3 そいつの嘘ぜくんぶわかるから」
4

5 【1】

6 ウエル「この状況で、私がアクセスの許可をするとでも？」
7

8 ソウマ「僕が許可する」
9

10 ウエル【「イライラと」何の権利があつて」
11

12 【ヒロイン、ソウマに振り向く】
13

14 【9 ウエルナーを見ながら】
15

16 ソウマ「権利もあるし、権限もある。
17

君がアクセスを拒否してもこじ開ける力もある。

ウエルナー、君はちよつと調整機を舐めすぎだよ。

自分の一番無防備な姿をさらす相手に、

よくそんなに高圧的な態度がとれるよね」
20

21 【7 ソウマを見ながら】
22

23 ウエル「つは！ 調整機などいつもこいつも、
24

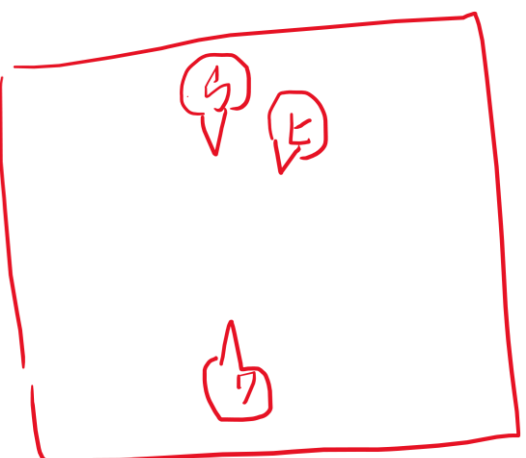
私たち戦闘機の感情のゴミ箱でしょう。

どうぞ命を懸けて戦ってくださいと、

足にキスして縋るための存在だ。

哀れな生贄ですよ。
27

それを私がどう扱おうが私の勝手でしょう」
28
29



1 【9 ウェルナーを見ながら】
2 ソウマ「ふーん。なのに助けに来たんだ」
3

4 【7 ソウマを見ながら】
5 ウェル「今度は何の妄言です？
6 助けてほしいのはこちらの方ですが」
7

8 ソウマ「通信が遮断されて、
9 君はニーナちゃんの安全を保障できなくなった。
10 ニーナちゃんがどんなに泣いて、叫んで、
11 本気で助けを呼んでも、その助けは君に届かない」
12

13 ソウマ「だから君は、懲罰を承知で暴れて見せた。
14 調整室の中で何が起きてても、
15 あの状態じゃ中断せざるをえないしね。
16 君が暴れて、ニーナちゃんの証言があれば、
17 僕もある程度の追及を受けただろう。

18 ニーナちゃんを守るために、
19 君がとれる唯一の最適解だったと思うよ。
20 そこは加点してあげる。
21 まあ、自分から窮地に追い込んでるから
22 減点でプラマイゼロってとこだけど」
23

24 ウェル「あなたの考えた物語を聞くのが懲罰ですか？
25 なるほど、殴られた方がマシなようだ」
26

27 ソウマ「じゃあ君が実際にやったことの話する？
28 ニーナちゃんに、
29 僕に抱かれて来いって言ったんだって？」

1 【9 ウェルナーを見ながら】

2 ソウマ「そんなことして、一体何の意味がある？

3 調整機を泣かせて、僕のことまで巻き込んで」

5 【7 ソウマを見ながら】

6 ウェル「意味も何も……ただの暇つぶしですよ。

7 馬鹿な尻軽が女たらしに引っかかって

8 無様に捨てられたところを

9 笑ってやろうと思っただけです」

11 ソウマ「僕は誰も捨てないよ」

13 ウェル「どの口が。あなたがどれだけの女を泣かせてきたか
14 私が知らないとしても？」

16 ソウマ「誰かが僕に“引っかかった”としても、

17 僕からは絶対に手放さない。

18 君こそ分かってると思ってたけどな、ウェルナー。

19 僕は君の手だって離さなかった」

21 【ソウマ、ゆっくりヒロインとウェルナーに近づく】

23 SE: 歩く足の音8歩くぐらう

25 【6→1 ウェルナーを見ながら】

26 ソウマ「怖いだろう。ニーナちゃんに見放されるのが。

27 だからわざわざ自分が一番脅威だと思う相手に

28 ぶつけて、自分が選ばれることを確認したがる」

SE:足音ストップ

【1 ウエルナーを見ながら】

ソウマ「でも、君がやってるのは確認行動じゃない。
破壊行動だよ。

せっかく存在した信頼関係と愛情を、
君は信じて守らず、疑って壊そうとしてる。
おじさん、とても見てられないよ。
君にニーナちゃんが壊されるのも、
ニーナちゃんが壊れて君が廃棄されるのも」

ソウマ「だから、望み通りにしてあげる。

見たいんだろ？ 僕が君の大事な調整機を、
徹底的に落とすところ。
ちようどいい。僕もこの子が欲しいからね」

【次のセリフ言いながらヒロインの腕をつかんで引き寄せ、背
後から抱きしめる】

【1↓6】

ソウマ「おいで、ニーナちゃん」



トラック6 ソウマ

ウエルナーの目の前でソウマとセックスする見せつけトラック。ソウマは他人の脳に入って感情や感覚を操作できるので、ヒロインの脳みそを弄って徹底的に追い詰めていく。

【6 背後から抱きしめながら】

ソウマ「ごめんね。」

僕なんかに触られて嫌だよね。

すぐに大丈夫にしてあげるから。

少し首を反らせて、頭こっちに寄せて。

君の頭の中に入らせてくれる？

僕の中にも入っていいから。

僕がドキドキしてるの、わかる？

君に触れたいって思ってる。

ああ……君もドキドキしてきたね。

体温が上がって、口の中が渴いて……

キスしたくなってきた？

舌を絡めるえっちなやつ。

ウエルナーに見せてやろう。僕らがキスしてるこ」

【ディープキス30秒程度】

【1】

ソウマ「ね？ 気持ちいい

【ここから頬や耳（7）にキスしながらしゃべる】

調整機同士のセックスって、

溶け合うみたいで最高なんだ。

下手なドラッグより抜けられなくなる」



しばらくべた足です

【7】

ソウマ「あー、ごめんね。こういうの久々だから、ちよつとがつついちゃうかも。

おっぱい触っていい？ 服脱がせるね。」

SE:ヒロインの服のファスナーおろす

SE:脱がす衣擦れ

ソウマ「震えてる。怖い？

けど、乳首立っちゃってるね。

大丈夫、君のせいじゃないよ。

僕がこうさせてるから、全部僕のせい。

かわいいね。いい子だ。

たくさん気持ちよくなっているからね」

SE:軽い衣擦れ

ソウマ「おっぱい触られるの気持ちいいね。

んー、感度いいなあ。

声、我慢してるの？ かわいいね。

軽く乳首触るたびに、びく、びくって震えて、

喉の奥から声出そうになっている。

あ。

僕のこと、また頭の中から締め出そうとしてるね。

悪い子だなあ。でも無理だよ。今回は無理だ。

絶対に逃がしてあげない」



下腹部あたりまでファスナーのあるジャンプスーツです。

【7 ささやくように】

ソウマ「もつとわけわからなくしてあげる。

今から君の体は、全部僕の言う通りになる。

僕がイけって言ったら、イクんだよ」

ソウマ「ほら、イけ」

SE:跳ねる感じの衣擦れ

ソウマ「あはは！ 上手にイけたね。

もう何回かイっちゃおうか。

イけ、イけ、イーけ」

SE:跳ねる感じの衣擦れ

ソウマ「もういや？ 言わないでほしい？

じゃあ、かわりに体の全部を性感帯にしちやおうか。

喉の奥をそうすれば、呼吸だけでイクようになる。

男でも女でも、この調整かけるとみーんな

気絶するまでイき続けるんだ」

【ヒロイン、他人に体を制御される恐怖に泣きだす】

ソウマ「泣いてるの？ かわいいね。

君の泣き顔、凄くお腹に響くな。

ウエルナーもこういうところが好きなのかな？」

【ヒロイン「助けてウエルナーさん」】

1 **【7】**
2 ソウマ「んー？ ウェルナーは助けてくれないよ。
3 ウェルナーがこれを望んだんだから。
4 でも、怖いならウェルナーにくつついてようか。
5 なーんにもできなくても、
6 椅子くらいの役には立つからさ」
7

8 **【ソウマ、ヒロインをウェルナーの膝に座らせる】**

9
10 SE:「サーー」
11

12 **【4】**
13 ウェル「ぐっ……！」
14

15 **【6】**
16 ソウマ「やさしく」さ、足開いて。
17 おじさんにはずかしいとこ全部見せちゃおうか」
18

19 ウェル「きつしよ……鳥肌立ちましたよ、今」
20

21 ソウマ「でも君の調整機は、そのキショイおじさん相手に
22 下着ぐちゃぐちゃにして足首まで濡らしてるよ？」
23

24 ウェル「ええ、本当に。
25 ニーナ、あなたにはがっかりですよ。
26 しまりのないメス顔晒して、
27 それでも私の調整機ですか？」
28

29 **【ヒロイン「いめんなさい」】**



1 【4】
2 ウエル「謝るのなら、態度で示しなさい。
3 次、一度でもイったら許しませんから」
4

5 【9】
6 ソウマ「えー。無理だよそんなの。」
7 だってほら、僕がイけって言うだけで」
8

9 SE:跳ねる衣擦れ

10
11 ソウマ「ね？ イっちゃった」
12

13 ウエル【ため息】「この、こらえ性のない淫乱が。
14 あーあ、あなたの汚らしい体液で、
15 私の服が汚れてるじゃないですか」
16

17 ソウマ「汚くなんてないよ。
18 キラキラしてて美味しそう。
19 ん〜……ちよっと調整かけようかな」
20

21 【ソウマ、ウエルナーが座ってる椅子の背に手をかけ、ヒロイ
22 ンの耳に口を寄せる】
23

24 SE:金属製の椅子が軽く軋む

25
26 【7】
27 ソウマ「思い出してごらん。
28 【触りながら】ここ、ウエルナーに
29 舐められてるところ」



1
2 SE…触れる水音

3
4 【7】

5 ソウマ「熱くて湿った舌が、
6 君のことを追い詰めるみたいに、
7 苦しいくらい、執拗にはい回る。
8 ほら、思い出してきた。
9 あはは、面白いでしょ。
10 なんにもされてないのに感じちゃうねえ」
11

12 【ヒロイン、パニックでもがく】
13

14 SE…衣擦れ
15

16 【3 耳元で】

17 ウエル「しっ！ しー！
18 人の上でじたばたもがくのはやめなさい。
19 ぎゃあぎゃあ喚いてイキ狂って、
20 少しも我慢できないんですか？」
21

22 【ヒロイン、歯を食いしばって耐える】
23

24 ウエル「そう、そのまま我慢して」
25

26 ソウマ「へえ、凄く凄く。
27 けど、どこまで我慢できるかなあ」
28
29

【7】

ソウマ「ねえ、ウエルナーはどんなふうに君をいじめるの？

乳首もぎゅーってするのかな。

痛いくらいに？ それとも優しく？

それも思い出してみようか。

ウエルナーが君の体に教え込んだ気持ちいい事、
全部思い出して狂っちゃおうね」

ソウマ「どう？

乳首いじられながら、クリもたくさん舐められて、

指でお腹のなかをかき混ぜられながら、

子宮ごっこつ殴られてる感じかな。

こんなの、我慢するのつらいよねえ。

ほら、イっちゃいなって」

【3】

ウエル「当然、耐えられるでしょう？

ただ、言葉で煽られてるだけです。

少しでも私に忠誠心があるなら」

※以下のセリフ、二人同時に聞こえるよう調整してください

ソウマ「イーけ、イーけ、ほら、もういきそうだ。

イけ、いけ、イけ」

ウエル「我慢しなさい、我慢。

イクな、イクな、イクな」

※同時ここまで

1
2 【ヒロイン、絶頂と同時に大号泣で「ごめんなさい」連呼】

3
4 【7】

5 ソウマ「ほーらイっちゃった。

6 我慢できなくってかーわいい。

7 謝らないでいいよ。

8 よしよし、いい子だね」

9
10 【4】

11 ウエル「あなたには心底失望しましたよ。

12 その歪んだ欲望を満たせるなら

13 誰が相手でもいいんでしょう。

14 この変態とお似合いなのでは？」

15
16 【ヒロイン「ウエルナーさんがいい」と泣く】

17
18 【1】

19 ソウマ「えー？ まだウエルナーの方がいい？

20 頭の中いじくりまわされただけじゃ満足できないか。

21 しょうがない。

22 【笑顔でさらっと】じゃあ、

23 本物のおちんちんハメてあげる」

24
25 【ヒロイン「やだやだやだ」】

1 【1】

2 ソウマ「嫌なの？ 本当に？」

3 そんなにトロトロの顔して、

4 早くおちんちん頂戴って目してるのにな？

5 脳波もそうだねえ。

6 とても拒絶してる陽にはかんじられないな。

7 ウェルナーも、僕にちゃんと犯されてる

8 ニーナちゃんが見たいって。

9 なあ、ウェルナー。」

11 【4】

12 ウェル「お好きにどうぞ。

13 こんな女、今更どうなったところで」

15 ソウマ「こんなに泣いてる子に

16 よくそんなこと言えるね君……。

17 僕に乗り換えたほうが絶対にいいと思うけど」

19 SE:ベルト外す

20 SE:ファスナーおろす

22 【ソウマ、ヒロインの両脚抱え上げて下着ずらして挿入】

24 【7】

25 ソウマ「入れるよ。

26 お望み通りに、乱暴に」

28 SE:奥まで入れる水音



1 **【7】**

2 ソウマ「あゝこれ……ちよつとよすぎ。

3 普通に全然手加減できないかも。

4 んゝ**【耳にキス何度か】**。

5 動くね。いっぱい壊れていいよ。

6 後でちゃんと治してあげる」

7

8 **SE…出し入れする水音**

9 **SE…金属製の椅子の軋み**

10

11 **【ガン突きの吐息1分程度お願いします】**

12

13 **【ヒロインずっとウエルナーの名前呼び続ける】**

14

15 ソウマ「ねえ、それ。ウエルナーの名前呼ぶのさ。

16 いったいやめて、僕の名前呼ばない？

17 ソウマさんって、ほら、呼んで。

18 ほら、ほら、奥突いてあげるから」

19

20 **【ヒロイン、頑なに呼ばない】**

21

22 ソウマ「あつはは！ すごいな。

23 こんなにぐちゃぐちゃなのに、

24 絶対僕の名前呼ばないんだ。

25 面白くなってきたな。

26 どこまで壊したら名前呼んでくれる？

27 ねえ、ほら、ねえ。ねえ！」

28

29 **【ガン突きの吐息1分程度お願いします】**

【7】

ソウマ「つふふ。呼ばないねえ。

ずーっと、イキっぱなしで、

降りてこれなくて、

辛くて、苦しいのにねえ。

偉いなあ、ほんとに偉い子だ。

【囁き】好きになりそう。なっていい？」

ソウマ「あ、やばい出そ……あはは。

ごめんちよっと、

自分制御できないの久しぶりで……！

出すよ、中に、ああ……！【フィニッシュ】」

ソウマ【少し息整え】あーあ。

終わっちゃった。

よーしよし。息整えて。

深呼吸、深呼吸」

ソウマ「あー……でも、どうしよつか。

君の大事な戦闘機は、

ニーナちゃんのエッチな姿を

ずーっと間近で見せられて苦しいってさ」

ソウマ「まだ頑張れる？

だってご機嫌取ってあげないと、

ウェルナーに捨てられちゃうかも。

だよね？」

1 トラック7 君しか見えない

2 長いのでいったん区切る。トラック5の続き。

3 ウエルナーはずっと自分の名前を呼び続けるヒロインを見てて
4 まったく悪い気はしていない。ソウマにばちぼこに犯されて疲
5 れてそうだから休ませてやりたい気がしていたけれど、ヒロイ
6 ンが口直しセックスしたがるので付き合う3Pトラック。

8 【4】

9 ウエル「悪趣味もここまで極まると

10 芸術的とすら思えますね」

12 【ソウマ、ヒロインからいったん離れる】

14 【7↓9】

15 ソウマ「そんなガチガチに勃起させておいて、
16 変に強がらずに調整機に頼りなよ。

17 ちゃんと気づいてるよ。

18 ニーナちゃんの負担軽くしようとして。
19 下手に調整機の真似事したもんだから、
20 今脳波バグってるでしょ」

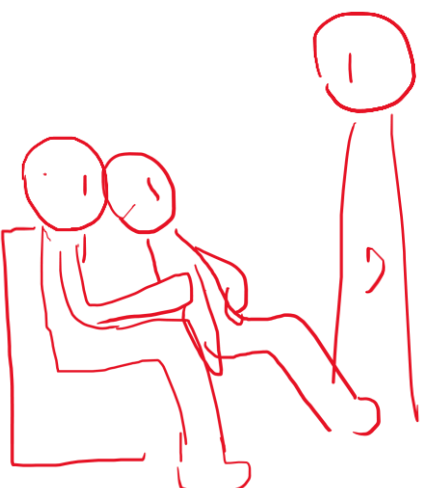
22 SE:驚きの衣擦れ

24 【ヒロイン「守ってくれてたんですか？」】

26 【4】

27 ウエル「っはん。

28 あなたがあまりにえげつないもので、
29 さすがの私も引いてしまいました」



【4】

ウエル「よもや、古株の調整機であるあなたが
私以下の倫理観の持ち主だったとは驚きました。
少しでも責任を感じてるなら、
あなたが私の脳波を整えては？
そうすれば体の反応も収まります」

【ヒロイン、体位を対面座位に持つて行く】

SE:衣擦れ

【4↓1】

ウエル「あ、こちら……！
人の上で無駄にごそごそ動くなと言ったでしょう。
どきなさい。
体が反応してるからと言って、
今はそういう気分じゃないんです」



【ウエルナー、「私は早く部屋に戻りたい」と言いかけてキス
される】。そのままデープキス長めをお願いします」

【1】

ウエル「さっきまではかの男に抱かれて
大喜びで腰を振っておいて、
今度は私に奉仕させようというんですか？
淫乱にもほどがある」

【ヒロイン、ウエルナーの服脱がし始める】

1 SE:ベルト外す

2 SE:ファスナーおろす

4 【1】

5 ウエル「ニーナ。やめなさい。

6 本気で言ってるんですよ。

7 私の命令がきけないんですか？」

9 【7 背後から】

10 ソウマ「いいよニーナちゃん。僕が許可する。

11 これは調整機により戦闘機への
12 必要性のあるメンテナンスだ」

14 SE:ゆっくり挿入音

16 ウエル「ニーナ！ あ、く………！

17 この………！」

19 ソウマ「あっはは！ いい声〜。

20 さてはニーナちゃんと接続してたから、
21 感度がくそザコになってるんだね」

22 ウエル「余計な説明をするなど言ってるんです！」

24 ソウマ「くそザコって言っても、それが普通の感度だからね。

25 普段の君の数値、ほとんど不感症に近いし。

26 ニーナちゃんと体の相性が良くてよかったねえ。

27 ほかの子相手じゃ射精まで行けないんじゃない？」

29 【ヒロイン、ソウマのこと気にせずにピストン始める】



2 SE:水音（ゆっくりめ）

3 SE:肉を打つ音

5 【ウエルナー、快樂我慢する苦しげな吐息長めにください】

7 ソウマ「ウエルナーの体でオナニーするの気持ちいい？

8 美味しそうに食べるねえ。」

10 ソウマ「ね、僕も混ざっていい？

11 僕も変なスイッチ入っちゃったみたいで、
12 見てたらまた勃ってきちゃった」

13 【1】

14 ウエル「ダメに決まってるでしょう。

15 あなたがどこまで変態でも構いませんが、
16 私をこれ以上巻き込まないでください……！」

18 【7】

19 ソウマ「ウエルナーには聞いてないって。

20 椅子の高さと角度ちよつと調整するね」

22 SE:軽いモーター音

24 ウエル「告発します。

25 あなたを。

26 絶対に……！」

1 【5】
2 ソウマ「それ、よく言われる。
3 お、こんなもんかな」

4
5 SE:モーター音ストップ

6
7 ソウマ「ああ、お尻もぬるぬるだね。指、簡単に入るよ」

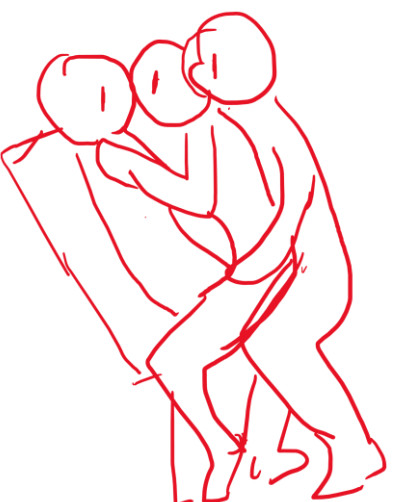
8
9 SE:ねっちりけいの水音

10
11 ソウマ「ならさずこのまま入れちゃえそうだな。
12 入れるよ。
13 ちよっと苦しいけど、我慢してね。」

14
15 SE:軽い衣擦れ

16 SE:押し込む水音

17 SE:出し入れいったんストップ



18
19
20
21 【7 耳元】

22 ソウマ【少し苦しそうに】ほら、入った。

23 ああ、きつつ……。

24 わかる？ ニーナちゃんのお腹の中、
25 僕のとウェルナーのとでパンパン」

26
27 【ヒロイン、自分で動けなくなる】
28
29

1 【7 耳元】

2 ソウマ「苦しくて動けなくなっちゃった？

3 大丈夫、僕がいっぱい動いてあげるから。

4 あ、ウエルナーも拘束外しとくね。

5 その方がやりやすいでしょ」

7 S E…拘束が外れる小さなモーター音

9 【3 耳元】

10 ウエル「この状況で外されたところで…:

11 ああ、くそ。

12 イライラし過ぎてますます勃ってきましたよ」

14 【7 耳元】

15 ソウマ「耳まで真っ赤になって、苦しそうで可愛いね。

16 このまま耳舐めたら、

17 動かなくてもイっちゃうんじゃない？

18 試してみようか。ねえウエルナー」

20 ウエル「試すまでもなく、

21 想像だけでもうイってるじゃないですか。

22 お望み通り耳も犯してあげますから、

23 感謝してイキ狂いなさい」

25 【ウエルナーとソウマ、3と7の位置で同時に耳舐め 1分く
26 程度】
27
28
29

1 【7 耳元】

2 ソウマ「あは、ずーっと甘イキしてる。

3 んー？ 自分から腰へこしちやってるね。

4 もう動いてほしくて我慢できない？」

6 【ヒロイン、ウエルナーにキスをねだる】

8 【3 耳元】

9 ウエル「キス？ 耳だけじゃなく、口も犯せと？

10 仕方ありませんね。ほら、舌を出して」

12 【ウエルナー、ディープキス十秒程度から、そのままキスハメ
13 に以降してください】

15 ソウマ「キス、気持ちよさそう。

16 あー、でもごめん、おじさんもう限界だわ。

17 動くね」

19 S E .. 出し入れする水音

20 S E .. 肉を打つ音

22 ※以下同時

23 【ウエルナー、【キスハメ1分程度。やりやすいタイミングで
24 終わらせてください】

26 【ソウマ、【7】で吐息1分程度、やりやすいタイミングで終
27 わらせてください】

29 ※同時ここまで

1
2 【ウエルナー、ソウマ、同時にヒロインに中出しして終わる】

3
4 【7】

5 ソウマ「はあ、はあ……【満足のため息】はあ〜〜。
6 めちゃくちゃよかった。

7 ここしばらくのストレス全部飛んだかも…つと」

8
9 【ソウマ、満足してヒロインから離れる】

10
11 S E…抜く水音

12 S E…金属椅子の軋む音

13
14 【以降の会話、事後の気だるさ忘れないでください】

15
16 【3】

17 ウエル「こちらは一年分のストレスを
18 ため込んだ気分ですよ」

19
20 【5】

21 ソウマ「そっちが仕掛けてきたのに……。

22 しっかし、全然僕になびいてくれなかったなあ。

23 ウエルナーも、これで少しは安心できた？」

24
25 ウエル「私の目の前で尻を犯されて喜んでた女に対して、
26 何をどう安心しろと？」

27
28 ソウマ「確かに、流されやすいところはあるかもなあ」

29

【5】

ソウマ「けど、君を選び続けてた。

大事にしなよ。

【急に不安になって】っていうか、
ちよつと無理させ過ぎたかな……」

【3】

ウエル「どうせ、明日にはけろつとしてますよ。

そうでなければ、私の調整機など務まりませんから」

ソウマ「確かに」

トラック8 エピローグ

後日、中央での基礎訓練や事務手続きなどで忙しく過ごしていたヒロインとウエルナーは、再びソウマの調整室に呼ばれてイヤイヤ向かうことに。

SE…足音フェードイン

SE…スライドドア開く

SE…足音二人分

SE…スライドドアしまる

ウエル「識別番号FV・09ウエルナーと、その調整機FC・27。呼び出しに応じ参上しました」

【16】

ソウマ「ああ、デスクの前まで来てくれる？」

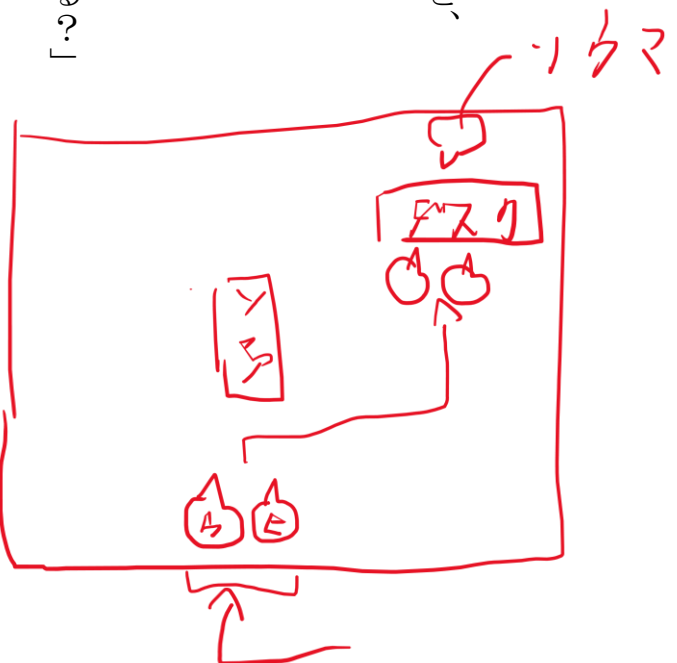
SE…足音二人分

【ウエルナー、ヒロインの横に立ってソウマを見る】

【7 隣に立つ距離】

ウエル「それで？ご用件は？」

またニーナの尻を貸せと言うならお断りしますが」



1 【9】

2 ソウマ「借りたい気持ちはあるけど、
3 今日は真面目な仕事の話。
4 今後の君たちの運用についてだ」

5
6 ソウマ「上層部としては君たちを

7 ばらばらに運用する予定だったんだ。
8 最悪ウエルナーは廃棄で、
9 ニーナちゃんには別の戦闘機を
10 あてがう方向で話が進んでた」

11
12 【ヒロイン「私ことわりましたよ！」】

13
14 SE：強めの衣擦れ

15
16 ソウマ「確かにニーナちゃんは断ったよ。
17 でも、こういう辞令って断れないから。
18 ただ、ちょっと問題が発生しちゃってね」

19
20 【7 隣に立つ距離 正面を見て】
21 ウエル「問題？」

22
23 ソウマ「君の検査結果だよ、ウエルナー。
24 ほとんどすべてが異常値で、
25 戦闘シミュレータの成績も、
26 一部は歴代トップをたたき出してる。
27 言ってしまうば、ニーナちゃんに
28 あてがう予定の戦闘機より、
29 数値の上では君の方が優秀という結果になった」

1 【7 隣に立つ距離 正面を見て】
2 ウエル「はあ……別に驚きもしませんが」
3

4 【9】

5 ソウマ「けど、上層部は驚いた。」

6 そして、君を廃棄するルートが消えた。

7 ニーナちゃん以外の調整機で運用できれば

8 理想的だったんだけど……」
9

10 ウエル「ああ、あの適合検査の無能共。」

11 あれが私のパートナー候補だったんですか？」
12

13 ソウマ「まあ、全員訓練学校上りの新人だよ。」

14 けど、君はその状態のニーナちゃんに適合した。

15 だから〃すれてない若い子〃が

16 好きなかと思って」
17

18 ウエル「ニーナ。私が今ソウマを殺したら、

19 通り魔がやったと証言できますか？」
20

21 【ヒロイン「できます」】
22

23 S E : 衣擦れ
24

25 ソウマ「胸を張って犯罪の幫助を宣言するんじゃないやありません。」

26 調整室は監視カメラ入ってるし、

27 僕の脳もブラックボックス埋めてあるから

28 死ぬ直前の会話は閲覧できるからね」
29

1 【7 隣に立つ距離 正面を見て】
2 ウェル「あなたが殺されていない理由がわかりましたよ」
3

4 【9】

5 ソウマ「愛されキャラだからかな。」

6 とにかく、結局君たちはペアで運用するのが
7 一番効率がいいという結論がようやく出た。

8 おめでとう。そしてようこそ中央基地へ。

9 フロントからセントラルへの移籍に伴って、

10 識別番号がFからCに変更になります。

11 今後、間違えないように気を付けてね。

12 で、ここまでの仕事の話」

13
14 ウェル「では、失礼します」
15

16 SE:回れ右して歩き出す
17

18 【13】

19 ソウマ「えゝそんなに邪険にしないで、

20 おじさんの話聞いてってよお」
21

22 SE:足音二人分

23 SE:電子ロックエラー×2回くらい
24

25 【3 隣に立つ距離】

26 ウェル「くそでかため息】職権乱用もいいところだ……
27

28 【ソウマを見て】扉をロックしてまで
29

聞かせたい話とは？」

1 【9】

2 ソウマ「この前のえっち凄く気持ちよかったなと思って」

4 【3 隣に立つ距離】

5 ウエル「火災報知器鳴らして逃げましょうか」

7 ソウマ「僕って一回寝た相手に

8 ものすごく執着されるんだよね。

9 寝てなくても執着されて、

10 知らない所で流血沙汰が起きてたり」

12 ウエル「知ってますよ。十年前に死ぬほど見ましたから」

14 ソウマ「だから、僕があそこまで徹底的に落としにかかって

15 全然振り向いてくれなかったのって、

16 ニーナちゃんだけなんだよね」

18 ウエル「それが何か？」

20 ソウマ「好きになっちゃった」

22 ウエル「もう一つの目玉も抉り出しましょうか？」

24 ソウマ「それ冗談にできるメンタルはすごいなあ。

25 普通、僕の義眼见て

26 ちよっと申し訳ないと思ったりしない？」

28 【ヒロイン「え？ ソウマさんを失明させた戦闘機って」】

1 【9】

2 ソウマ「ああ、そう。ウエルナーだよ。この目潰したの」

3
4 ソウマ「さすがに少し問題になって、

5 実践投入前に廃棄の話も出たんだけど、

6 僕が“どうにかするから”って言って

7 なんとかね」

8
9 【3 隣に立つ距離】

10 ウエルナ「恩着せがましい」

11
12 ソウマ「そんな僕の過去に免じて、

13 時々僕とも遊んでほしいなあって。

14 ニーナちゃんと二人きりがいいなんて言わないし。

15 全然ウエルナーごと抱いてあげるからさ」

16
17 ウエル「だからあなたはそういうところが

18 いちいち気色悪いんですよ！」

19
20 ソウマ「僕がいるとプレイの幅広がるよ？

21 ウエルナーなんて、どうせ縛って罵る

22 単調なプレイしかできないでしょ。

23 で、時々思い出したように溺愛セックス」

24
25 ウエル「あなたは私の性生活を監視してるんですか？

26 暇人にもほどがあるでしょう。

27 ニーナ。物欲しそうな目でソウマを

28 見るのはやめなさい。

29 快楽に貪欲すぎて時々本気で引きますよ」

1
2 【ヒロイン「でも、三人でなら……」】

3
4 SE:衣擦れ

5
6 【1 ヒロインを見て】

7 ウエル「ダメです。私は二度とあなたを

8 この男に触らせる気はありませんから」

9 【9】

10 ソウマ「え？ それってもう愛じゃない？」

11
12 【3 隣に立つ距離】

13 ウエル「ただの所有物への独占欲です。

14 ただそれだけですよ」

15
16
終わり